



Sun Blade™ 6000 モジュラーシステム 設置ガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-2068-10
2007年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス被許者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Blade, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, États-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. possède les droits de propriété intellectuelle relatifs à la technologie décrite dans ce document. En particulier, et sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plusieurs des brevets américains listés sur le site <http://www.sun.com/patents>, un ou les plusieurs brevets supplémentaires ainsi que les demandes de brevet en attente aux États-Unis et dans d'autres pays.

Ce document et le produit auquel il se rapporte sont protégés par un copyright et distribués sous licences, celles-ci en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Tout logiciel tiers, sa technologie relative aux polices de caractères, comprise, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit peuvent dériver des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux États-Unis et dans d'autres pays, licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Blade, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface utilisateur graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox dans la recherche et le développement du concept des interfaces utilisateur visuelles ou graphiques pour l'industrie informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface utilisateur graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciés de Sun implémentant les interfaces utilisateur graphiques OPEN LOOK et se conforment en outre aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DÉCLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES DANS LA LIMITE DE LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE À LA QUALITÉ MARCHANDE, À L'APTITUDE À UNE UTILISATION PARTICULIÈRE OU À L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

1. Sun Blade 6000 モジュラーシステムの設置準備	1
ご購入のシステムについて	2
シャーシパッケージの内容	3
必要なツールと機材	4
配備に関する考慮事項	4
ラックマウントのオプションと要件	5
入出力 (I/O) 接続	5
柔軟な I/O 設定	6
管理 Ethernet ネットワーク	6
オペレーティングシステムのサポートとインストール	7
システム管理ツール	7
システム管理レベルと機能	7
インストール作業のチェックリスト	9
シャーシをラックにマウントするための準備	10
静電気の防止	10
コンポーネントの取り外し	10
ラックへのシャーシの搭載	16

2. シャーシへのモジュールとオプションの設置	17
モジュールとオプションの設置の計画	18
モジュールとオプションの設置の前提条件	18
静電気の防止	18
モジュールとオプションの設置	19
次の作業	26
3. モジュールへのケーブルとデバイスの接続およびシステムシャーシの電源投入	27
外部 I/O ポートと電源差し込み口について	28
Network Express Module (NEM)	28
PCI Express Module (PCI EM)	29
シャーシ監視モジュール (CMM)	31
AC 電源インタフェース	31
サーバーモジュール	32
Sun Blade 6000 モジュールへの I/O ケーブルの接続	32
電源ケーブルの接続	32
CMM ネットワーク管理ケーブルの接続	34
NEM データネットワーク管理ケーブルの接続	35
PCI EM データネットワーク管理ケーブルの接続	36
開始前のご注意	36
CMM へのシリアルコンソールの接続	37
システムシャーシへのはじめての電源投入	38
次の作業	40

4. Sun Blade 6000 モジュラーシステム管理ネットワークの設定	41
Integrated Lights-Out Manager とは	42
事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて	42
CMM ILOM への初期接続の確立	43
DHCP IP 割り当てについて	43
静的 IP 割り当てについて	43
シリアルコンソールへの最初の接続について	44
管理ネットワーク IP アドレスを使用した CMM ILOM との通信	44
はじめての IP アドレスの割り当て	45
準備すべき事柄	45
CLI による CMM ILOM の Root アカウントのパスワード変更	49
次の作業	49

はじめに

『Sun Blade 6000 モジュラーシステム設置ガイド』では、Sun Blade™ 6000 モジュラーシステムをはじめて設置および設定する方法について詳しく説明します。

本書は、ラックマウント型システムやコンピュータのハードウェアに精通しているシステム設置技術者、およびさまざまなオペレーティングシステムのインストールと設定の経験を持つシステム管理者を対象としています。

本書の構成

第1章では、Sun Blade 6000 モジュラーシステムを設置するための準備作業について説明します。

第2章では、シャーシにモジュールとオプションを設置する方法について説明します。

第3章では、ケーブルおよびデバイスをシステムに接続し電源を投入する方法について説明します。

第4章では、Sun Blade 6000 モジュラーシステム管理システムをはじめて設定する方法について説明します。

関連ドキュメント

Sun Fire X4600 M2 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

Sun 関連ドキュメント、サポート、トレーニング

Sun の部門	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

表記上の規則

字体	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> (ユーザーズガイド)』の第6章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade 6000 モジュラーシステム設置ガイド』、部品番号 820-2068-10。

Sun Blade 6000 モジュラーシステム の設置準備

この章では、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの基本機能、および注文可能な一部のオプション機能について説明します。また、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの出荷用梱包内容についても説明します。最後に、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの設定と設置の前に検討すべき導入に関するさまざまな考慮事項を示します。

この章は、次のように構成されています。

- 「ご購入のシステムについて」(2 ページ)
- 「配備に関する考慮事項」(4 ページ)
- 「インストール作業のチェックリスト」(9 ページ)
- 「ラックへのシャーシの搭載」(16 ページ)

ご購入のシステムについて

Sun Blade 6000 モジュラーシステムには、基本機能とさまざまなオプションの機能があります。Sun Blade 6000 モジュラーシステムの基本機能は、工場で組み立てられ、システムシャーシにあらかじめ設置された状態で出荷されます。サーバーモジュール、Network Express Module (NEM)、および PCI-Express Module (PCI EM) は、設置済みの状態で納入されるか、個別に納入されます。次の表に、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの基本機能とオプション機能を要約します。

表 1-1 Sun Blade 6000 モジュラーシステムの説明

基本のシステム機能	説明
Sun Blade 6000 モジュラーシステムの基本機能	Sun Blade 6000 モジュラーシステムは、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの中核的コンポーネントです。Sun Blade 6000 シャーシには、次の基本シャーシ機能が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 10 個のサーバーモジュール設置用スロット• 20 個の PCI Express Module 設置用スロット• 2 個の Network Express Module (NEM) 設置用スロット• 1 個のシャーシ監視モジュール (CMM)• 2 個の電源モジュール• 6 個の冗長背面ファンモジュール• 前面および背面のシステムインジケータランプ
Sun Blade 6000 シャーシオプション	Sun Blade 6000 シャーシには、次のシャーシオプションを購入および設置できます。 <ul style="list-style-type: none">• PCI Express Module (PCI EM)。4Gbps Dual Port ファイバチャネル (FC) PCI Express Module、ギガビット Ethernet Dual Port PCI Express Module、10Gbps Dual Port Infini Band (IB) PCI Express Module。Sun Blade 6000 シャーシには、最大 20 個の PCI EM (サーバーモジュールあたり 2 個の PCI EM) が設置可能です。• Network Express Module (NEM)。ギガビット Ethernet 10 ポート Network Express Module Sun Blade 6000 シャーシには、最大 2 つの NEM が設置可能です。NEM は将来的に、追加の入出力技術を装備する可能性があります。
サーバーモジュールの構成	Sun Blade 6000 シャーシには、最大 10 個のサーバーモジュールが設置可能です。

シャーシパッケージの内容

Sun Blade 6000 シャーシは、衝撃から保護するためにポリエチレンフォームのクッションで梱包され、木製パレット付きの波型梱包箱に入れて納入されます。密封された波型梱包箱の底には、木製のパレットがキャップ付きの釘で取り付けられています。シャーシアセンブリは、強度を高め保護するために木製のパレットに固定されています。

次の表で、シャーシパッケージの内容を説明します。

表 1-2 出荷されるシャーシパッケージの内容

項目	説明
Sun Blade 6000 シャーシ	出荷される Sun Blade 6000 シャーシには、次の項目が同梱されています。 <ul style="list-style-type: none">• 1 個のシャーシ監視モジュール (CMM)• 9 個のサーバーモジュール用フィルターパレット• 2 個の NEM 用フィルターパレットまたは NEM• 20 個の PCI EM 用フィルターパレットまたは PCI EM• シャーシの側面に貼られたサービスカード• サーバーモジュールの入出力接続用ドングル• RJ45/DB9 ドングル用シリアルアダプタ
アクセサリキット	アクセサリキットには、次のドキュメントが付属しています。 <ul style="list-style-type: none">• 『Where to Find Sun Blade 6000 Modular System Documentation (Sun Blade 6000 モジュラーシステムのドキュメントの場所)』• 『Sun Blade 6000 モジュラーシステムご使用の手引き』• その他の安全およびライセンスに関するドキュメント
カントリーキット	カントリーキットには、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの電源コードが 4 本付属しています。
ラックマウントキット	ラックマウントキットには、次の項目が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• ラックアラインメントテンプレート• ラックマウント用棚• ラックアダプタプレート• ラックマウントに必要なねじ釘
その他のオプション	<ul style="list-style-type: none">• 追加の NEM (最大 2 個)• 追加の PCI EM (最大 20 個)• 追加の サーバーモジュール (最大 10 個)• 『Sun Blade 6000 モジュラーシステム設置ガイド』

シャーシの開梱には、特別なツールは必要ありませんが、ナイフやカッターなど、通常、開梱に使用するツールは必要です。

注 – リフトを使用してシャーシを設置する場合、設置を補助する台として、シャーシのパッケージを使用できます。詳細は、ラックマウントの説明書を参照してください。

必要なツールと機材

基本のモジュールとオプションのモジュールをシャーシに設置し、シャーシをラックにマウントするには、次のツールと物品が必要です。

- No.2 のプラスドライバ
- ラックマウントキット
- 静電気防止用リストストラップ
- ESD マット

配備に関する考慮事項

このセクションでは、使用環境でのSun Blade 6000 モジュラーシステムの設定や設置について、配備上の考慮事項を説明します。

注 – ラックにサーバーをマウントする前の考慮事項については、『*Sun Blade 6000* モジュラーシステムサイト計画の手引き』(820-2078)を参照してください。

このセクションでは次の項目について説明します。

- 「ラックマウントのオプションと要件」(5 ページ)
- 「入出力(I/O)接続」(5 ページ)
- 「管理 Ethernet ネットワーク」(6 ページ)
- 「オペレーティングシステムのサポートとインストール」(7 ページ)
- 「システム管理ツール」(7 ページ)

ラックマウントのオプションと要件

Sun Blade 6000 シャーシは、Sun の次のラックとキャビネットに設置できます。

- Sun Rack 1000 キャビネットファミリ (高さ 72 インチ/184 cm)
- Sun StorEdge (高さ 72 インチ/184 cm) 拡張キャビネット
- 19 インチ EIA 準拠産業標準規格ラック格納装置

ラックマウントを行う各 Sun Blade 6000 シャーシについて、ラックマウントキットが必要です。ラックマウントキットは、Sun Blade 6000 シャーシパッケージに付属しています。このキットには、ラックマウントレールとハードウェアが含まれています。

入出力 (I/O) 接続

Sun Blade 6000 モジュラーシステムは、Network Express Module (NEM) と PCI Express Module (PCI EM) を組み合わせて使用することで、柔軟な I/O 接続を提供します。このセクションでは、これらのモジュールとその利点について説明します。

Sun Blade 6000 モジュラーシステム用に提供される最初の NEM は、ギガビット Ethernet モデルです。各ギガビット Ethernet NEM には、10 個の 10/100/1000 BASE-T Ethernet 銅インタフェースがあり、各サーバーモジュールに 1 つずつが専用で使用されます。NEM はホットスワップ可能なモジュールなので、システム管理者はシステムの電源を切断せずに、必要に応じて NEM を簡単に追加または削除できます。

PCI EM は、サーバーごとに設定可能な、独立した専用の入出力機能を提供します。PCI EM フォーマットは、PCI-SIG 標準機関が開発した標準規格です。シャーシのミッドプレーンは、PCI EM とサーバーモジュール間の PCI-Express 接続機能を提供し、各サーバーモジュールに 2 つの PCI EM を割り当てます。PCI EM は、完全にホットスワップ可能なので、システム管理者は簡単に PCI EM を交換できます。PCI EM は NEM と同様、接続されたサーバーモジュールに一切変更を加えずにライブシステムに設置できます。Sun Blade 6000 モジュラーシステムは、業界標準規格のホットスワップ可能な PCI EM をサポートします。Sun Blade 6000 モジュラーシステムの初期リリースで、次の PCI EM が提供されます。

- ファイバチャネルデュアルポート PCI Express Module
- Ethernet デュアルポート PCI Express Module
- InfiniBand デュアルポート PCI Express Module

柔軟な I/O 設定

Sun Blade 6000 モジュラーシステムでは、複数の I/O モジュールを組み合わせて行うことができます。たとえば、1 つのサーバーモジュールをファイバーチャネル PCI EM の冗長ペアとともに設定し、別のサーバーモジュールを 1 つの InfiniBand PCI EM とともに設定した上で、ギガビット Ethernet によって NEM でシャーシ内のすべてのサーバーモジュールに一律な I/O 機能を提供できます。

また PCI EM や NEM を単純にスワップすることで、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの I/O 設定を簡単に変更できます。

システムシャーシには最大 20 個の PCI EM (Ethernet、IB、FC) および 2 個の 10 ポート Ethernet NEM を設置できます。すべての I/O モジュールは、次の 3 種類のネットワークへの接続を提供できます。

- ローカルエリアネットワーク
- Storage area network (SAN)
- クラスタリングで使用される高帯域、低遅延のネットワーク

管理 Ethernet ネットワーク

Sun Blade 6000 モジュラーシステムでは、さまざまな方法でシャーシコンポーネントとサーバーモジュールを管理できます。すべてのシステム管理アクセスは、シャーシ監視モジュール (CMM) の管理ポートを通じて行います。また内部アクセス用に、内部 Ethernet ネットワークを形成する Ethernet スイッチが CMM に装備されています。この内部接続は、CMM、サーバーモジュールのサービスプロセッサ (SP)、および外部 Ethernet ポートを接続しているため、Ethernet LAN 全体にわたる完全なシステム管理が可能です。

Sun Blade 6000 サーバーの管理についての詳細は、『*Integrated Lights Out Manager (ILOM) Administration Guide for Sun Blade 6000 Modular Server* (Sun Blade 6000 モジュラーシステム用 Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド)』 (820-0052) を参照してください。

オペレーティングシステムのサポートとインストール

一部のサーバーモジュールのハードディスクドライブ (HDD) には、出荷前にあらかじめ Solaris™ 10 オペレーティングシステムがインストールされています。この場合、HDD には最新のドライバが事前にインストールされ、インストール済みの Solaris 10 オペレーティングシステムに統合されています。Solaris 10 オペレーティングシステムが出荷前にインストールされている場合は、通常の設定手順が短縮されます。必要なインストールパラメータは、ロケール、時間帯、root パスワード、ネットワーク設定などです。

その他のオペレーティングシステムもあわせてサポートされます。プリインストールの Solaris 10 の設定と、代替のオペレーティングシステムのインストールについては、サーバーモジュール別のドキュメントを参照してください。

システム管理ツール

Sun Blade 6000 モジュラーシステムは、Integrated Lights Out Manager (ILOM) システム管理ツールをサポートしています。ILOM を使用すると、ハードウェア構成の表示、システム情報の監視、システム警告の管理などを通じて、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの監視と管理を行うことができます。ILOM には、CMM サービスプロセッサにインストールされたコマンドラインインタフェース (CLI) ILOM があります。これは シャーシへの電源投入時に自動的に初期化されます。また、これはサーバーモジュール上でのホストオペレーティングシステムの状態に関係なく動作し続けます。

システム管理レベルと機能

Sun Blade 6000 モジュラーシステムでは、すべてのシステム管理操作を次の 2 つのレベルで簡単に制御し監視できます。

- **サーバーモジュールレベル。**サーバーモジュールレベルでは、各サーバーモジュールのサービスプロセッサと直接通信することにより、システムの動作を個別に管理できます。サーバーレベルでは、次の管理操作を実行できます。
 - 対象の環境センサーの表示
 - サーバーモジュール自体、CPU、DIMM、および PCI EM のインベントリの取得
 - SP ファームウェアと BIOS イメージのダウンロードの有効化

- **シャーシ監視モジュール(CMM)レベル。**シャーシ監視レベルでは、CMM と直接通信することにより、すべての共有シャーシコンポーネントについてのシステムの動作を管理できます。シャーシレベルでは、次の管理操作を実行できます。
 - すべてのシャーシコンポーネントの環境制御状況の表示
 - ホットスワップによるシャーシコンポーネントの挿入と除去のインベントリ管理
 - サーバーモジュールレベルの特定の設定の詳細表示
 - 各サーバーモジュールのネットワーク設定

サーバーモジュールレベルとシャーシレベルのそれぞれの管理操作に加え、次の共通の管理操作を両方のレベルで実行できます。

- **ネットワークセットアップ/DHCP クライアント設定。**IP アドレスを割り当てるか、DHCP を設定します。
- **ハードウェアの監視とシステムの管理。**センサーや温度計などのハードウェアに関する情報を取得します。
- **イベントフィルタリングと通知。**イベントの重要度とイベント通知の設定を制御します。
- **変更の監査。**システム設定に対して行った変更のログを表示します。
- **役割に基づくユーザー管理。**ユーザーに役割を割り当て、役割に基づいてアクセス権を管理します。
- **LDAP クライアントの設定。**LDAP サーバーの IP アドレスの設定、認証のセットアップ、および役割のマッピングを行います。
- **RADIUS クライアントの設定。**RADIUS サーバーの IP アドレスの設定、認証鍵のセットアップ、および役割のマッピングを行います。
- **SNMP エージェントの設定。**SNMP ユーザーの管理、コミュニティストリングのセットアップ、およびトラップの設定
- **クロックまたは NTP の設定。**ローカルの時間を設定したり、NTP クライアントの使用を設定したりします。
- **イベントログ。**監査イベント、環境イベント、システムイベントなど、ログに記録された複数のクラスのイベントを表示します。
- **ファームウェアのアップグレード。**必要に応じて、ILOM のファームウェアをアップグレードします。

インストール作業のチェックリスト

次のリストに、設置作業を示します。

1. Sun Blade 6000 シャーシを開梱します。
2. シャーシをラックに搭載するために必要なすべての部品がそろっていることを確認します。
詳細は、「[シャーシパッケージの内容](#)」(3 ページ) を参照してください。
3. 必要に応じて、設置済みのモジュールを取り外します。
「[シャーシをラックにマウントするための準備](#)」(10 ページ) を参照してください。
4. Sun Blade 6000 シャーシのラックへのマウント
詳細手順については、ラックマウントキットに付属の *Sun Blade 6000* シャーシラックのアライメントテンプレートを参照してください。
5. Sun Blade 6000 モジュールとオプションをシステムシャーシに設置します。
[第 2 章](#)を参照してください。
6. 電源コードを Sun Blade 6000 モジュラーシステムの電源に接続します。
[第 3 章](#)を参照してください。
7. シャーシ監視モジュールを接続し、ネットワーク管理ができるように IP アドレスを設定します。
[第 4 章](#)を参照してください。

シャーシをラックにマウントするための準備

シャーシをラックにマウントする前に、次の点に留意します。

- 必ず『Sun Blade 6000 モジュラーシステムサイト計画の手引き』を参照して、サーバーを設置する要件にサイトが適合していることを確認します。
- リフトを使用せずに、サーバーを手動で設置する場合、シャーシに事前に設置されたコンポーネントの一部を取り外す必要があります。「[コンポーネントの取り外し](#)」(10 ページ)を参照してください。

静電気の防止

内蔵モジュールとオプションは、静電気にきわめて弱い電子部品です。衣服や作業環境から発生する通常量の静電気でも、コンポーネントを破壊する可能性があります。

内蔵コンポーネントのいずれかに接触するときには、静電気による損傷を防止するために次の対策を行います。

- ハードドライブ、サーバーモジュールオプション、NEM、EM などの静電気に弱いコンポーネントは、帯電防止素材の上に置きます。帯電防止素材として、次のアイテムを使用できます。
 - コンポーネントの出荷に使用された袋。
 - ESDマット(部品番号 250-1088、ご購入先にお問い合わせください)。
- 静電気防止用リストストラップ。このリストストラップを手首に装着し、もう一方の端をシステムシャーシのアースまたはシステムの金属部分に接地します。

コンポーネントの取り外し

リフトを使用せずにシャーシをラックにマウントする場合、次の手順を参照して、シャーシに事前に設置されたコンポーネントを取り外します。

- 「[電源モジュールの取り外し](#)」(11 ページ)
- 「[システムファンモジュールの取り外し](#)」(12 ページ)
- 「[NEM の取り外し](#)」(13 ページ)
- 「[PCI EM の取り外し](#)」(14 ページ)
- 「[CMM の取り外し](#)」(15 ページ)

▼ 電源モジュールの取り外し

図 1-1 に、電源を取り外す方法を示します。

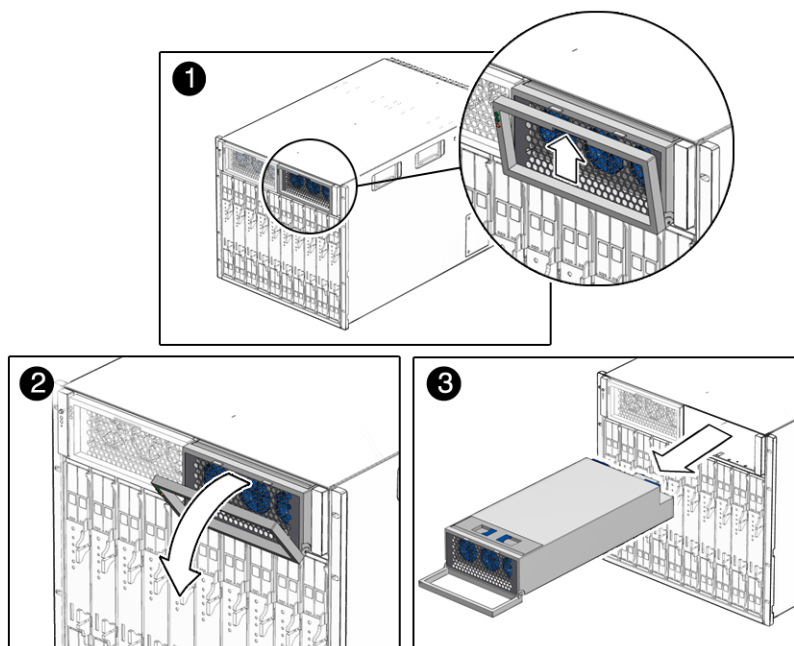


図 1-1 電源の取り外し

1. シャーシの前面で、取り外す電源スロットの場所を確認します。
2. 電源ハンドルフレームの上にある緑のボタンを押したままにします。
3. 電源モジュールのハンドルを下方に回転させて開きます。
4. 電源モジュールを少しだけ引き出し、底をもう一方の手で支えます。ハンドルだけを
持ってシャーシから電源モジュールを引き出さないでください。
5. シャーシから電源を引き出し、両方の手で持てる程度まで引き出したらすぐに両手で
支えます。
6. **ステップ 1** ~ **ステップ 5** を繰り返して、もう 1 つの電源を取り外します。

注 - 電源モジュールを安全な場所に保管します。シャーシをラックに搭載したあと、「[電源モジュールの設置](#)」(22 ページ) の説明に従って電源を再設置します。

▼ システムファンモジュールの取り外し

図 1-2 に、システムファンモジュールの取り外し方法を示します。

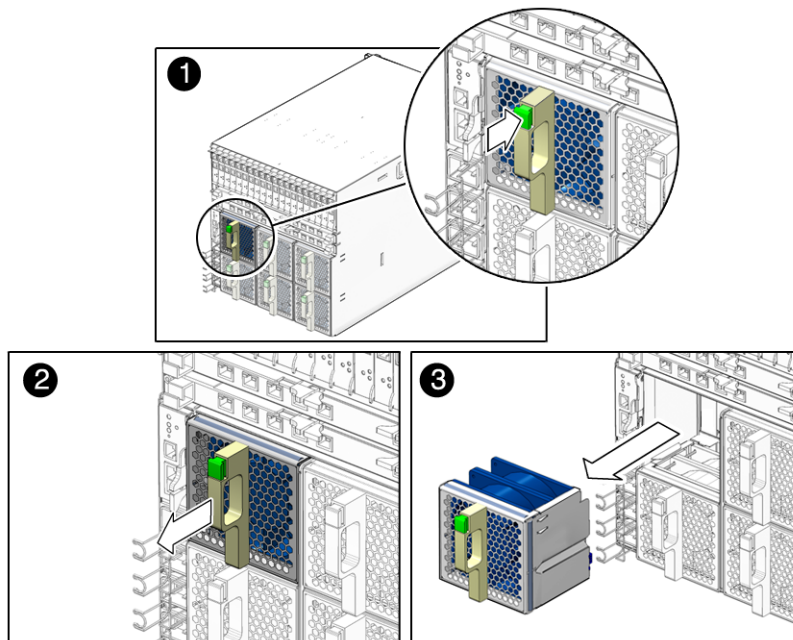


図 1-2 ファンモジュールの取り外し

1. シャーシの背面で、取り外すファンモジュールの場所を確認します。
2. ファンハンドルの上にある緑のボタンを押したままにします。
3. ゆっくりと背面ファンモジュールを引き出し、シャーシから完全に取り外します。
4. **ステップ 1** ~ **ステップ 3** を繰り返して、6 個の背面ファンモジュールをすべてシャーシから取り外します。

注 - 背面ファンモジュールを安全な場所に保管します。シャーシをラックに搭載したあと、背面ファンモジュールをシャーシに再設置する必要があります。この手順については、「[背面ファンモジュールの設置](#)」(25 ページ) を参照してください。

▼ NEM の取り外し

図 1-3 に、NEM の取り外し方法を示します。

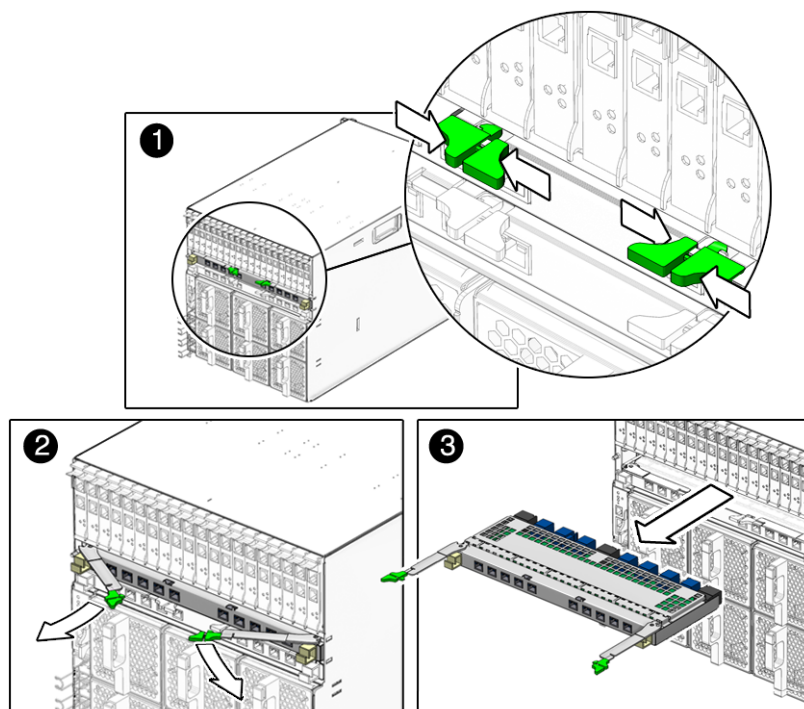


図 1-3 NEM の取り外し

1. シャーシの背面で、取り外す NEM の場所を確認します。
2. 左右の取り外しレバーの取り外しボタンを一緒に押したままにします。
3. NEM のラッチをシャーシから外すには、取り外しレバーを外側に回転させて開きます。
4. 開いた取り外しレバーを持ち、モジュールを手で引き出せるようになるまで NEM を引き出します。
5. もう 1 つの NEM を取り外す場合は、[ステップ 1](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

注 - NEM を安全な場所に保管します。シャーシをラックにマウントした後、NEM をシャーシに再設置する必要があります。この手順については、「[NEM の設置](#)」(23 ページ) を参照してください。

▼ PCI EM の取り外し

図 1-4 に、PCI EM を取り外す方法を示します。

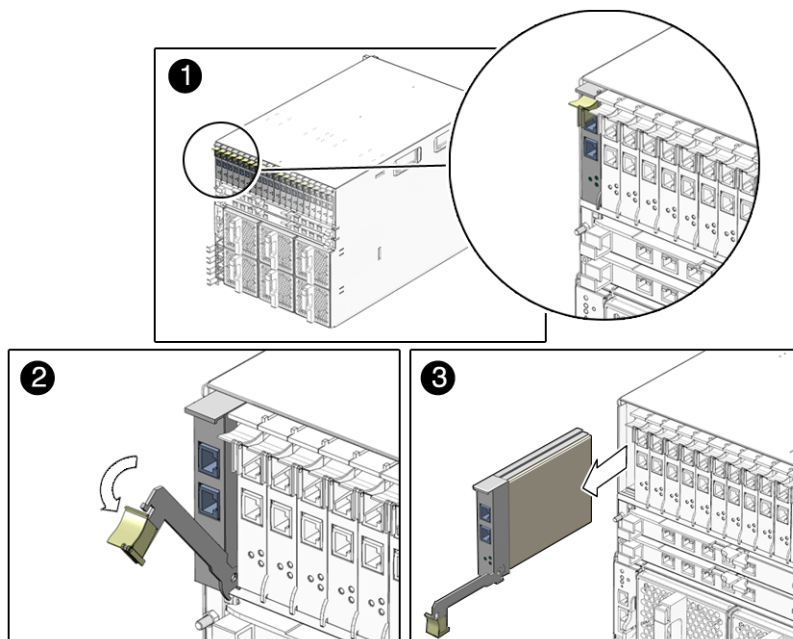


図 1-4 PCI EM の取り外し

1. シャーシの背面で、取り外す PCI EM の場所を確認します。
2. 取り外しレバーのハンドルの上に指をかけ、ハンドルを下向きに回転させて外します。
3. 取り外しレバーを手前に引き出し、モジュールを手で引き出せるようになるまで PCI EM を手前に引き出します。
4. **ステップ 1** ~ **ステップ 3** を繰り返して、設置されたすべての PCI EM をシャーシから取り外します。

注 - PCI EM を安全な場所に保管します。シャーシをラックにマウントした後、PCI EM をシャーシに再設置する必要があります。この手順については、「[PCI EM の設置](#)」(24 ページ) を参照してください。

▼ CMM の取り外し

図 1-5 に、CMM を取り外す方法を示します。

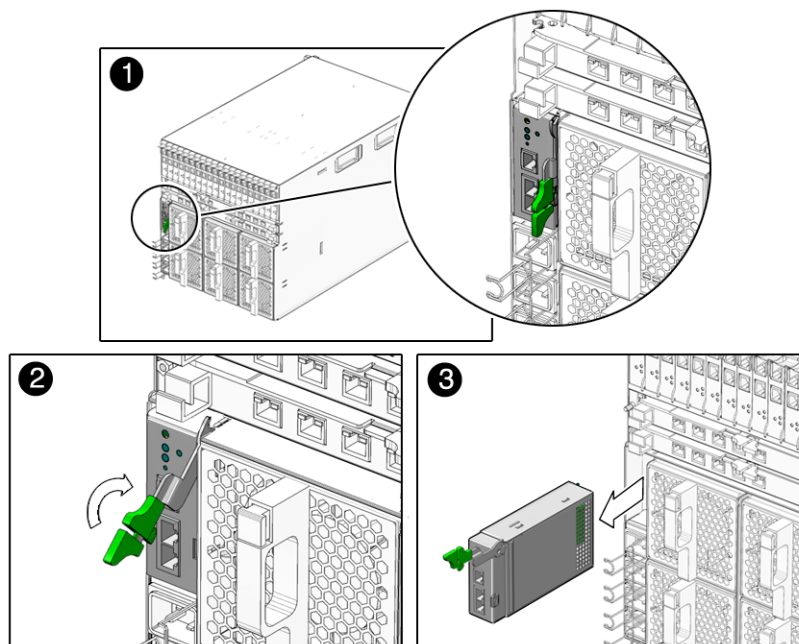


図 1-5 CMM の取り外し

1. シャーシの背面で、CMM の場所を確認します。
2. モジュールの取り外しレバーの取り外しボタンを押したままにします。
3. モジュールのラッチをシャーシから外すには、取り外しレバーを上方向に回転させて開きます。
4. モジュールを手で引き出せるようになるまで、取り外しレバーを手前に引き出します。

注 - CMM を安全な場所に保管します。シャーシをラックに搭載した後、CMM をシャーシに再設置する必要があります。この手順については、「[CMM の設置](#)」(26 ページ) を参照してください。

ラックへのシャーシの搭載

システムシャーシを開梱し、発注したコンポーネントがすべてそろっていることを確認します。搭載方法についての詳細は、*Sun Blade 6000 シャーシラックのアライメントテンプレート* (623-2755) で参照してください。このドキュメントは、Sun Blade 6000 モジュラーシステムラックマウントキットに付属しています。あるいは、次の Sun Blade 6000 モジュラーシステムのドキュメントサイトで入手することもできます。

<http://www.sun.com/documentation>

シャーシへのモジュールとオプションの設置

この章では、Sun Blade 6000 シャーシへのモジュールとオプションの設置方法について説明します。この章では次の項目について説明します。

- 「モジュールとオプションの設置の計画」 (18 ページ)
 - 「モジュールとオプションの設置の前提条件」 (18 ページ)
 - 「静電気の防止」 (18 ページ)
- 「モジュールとオプションの設置」 (19 ページ)
 - 「サーバーモジュールの設置」 (19 ページ)
 - 「電源モジュールの設置」 (22 ページ)
 - 「NEM の設置」 (23 ページ)
 - 「PCI EM の設置」 (24 ページ)
 - 「背面ファンモジュールの設置」 (25 ページ)
 - 「CMM の設置」 (26 ページ)
- 「次の作業」 (26 ページ)

モジュールとオプションの設置の計画

Sun Blade 6000 モジュラーシステムのモジュールとオプションをシステムに設置する前に、このセクションの項目を確認してください。

- 「モジュールとオプションの設置の前提条件」(18 ページ)
- 「静電気の防止」(18 ページ)

モジュールとオプションの設置の前提条件

Sun Blade 6000 モジュラーシステムのモジュールとオプションを設置する前に、次の作業を行います。

- 第 1 章を確認します。
- Sun Blade 6000 シャーシをラックまたはキャビネットに設置します(ラックまたはキャビネットを購入していない場合を除く)。詳細な手順については、『Sun Blade 6000 シャーシラックのアライメントテンプレート』(263-2755)を参照してください。

ご購入の各モジュールについては、この章の後半でモジュール別の設置手順を説明します。

静電気の防止

内蔵モジュールとオプションは、静電気にきわめて弱い電子部品です。衣服や作業環境から発生する通常量の静電気でも、コンポーネントを破壊する可能性があります。

内蔵コンポーネントのいずれかに接触するときには、静電気による損傷を防止するために次の対策を行います。

- ハードドライブ、サーバーモジュールオプション、NEM、PCI EM などの静電気に弱いコンポーネントは、帯電防止素材の上に置きます。帯電防止素材として、次のアイテムを使用できます。
 - コンポーネントの出荷に使用された袋。
 - ESDマット(部品番号 250-1088、ご購入先にお問い合わせください)。
- 静電気防止用リストストラップ。このリストストラップを手首に装着し、もう一方の端をシステムシャーシのアースまたはシステムの金属部分に接地します。

モジュールとオプションの設置

このセクションでは、Sun Blade 6000 シャーシへの新規モジュールと新規オプションの設置方法について説明します。このセクションでは次の項目について説明します。

- 「サーバーモジュールの設置」(19 ページ)
- 「電源モジュールの設置」(22 ページ)
- 「NEM の設置」(23 ページ)
- 「PCI EM の設置」(24 ページ)
- 「背面ファンモジュールの設置」(25 ページ)
- 「CMM の設置」(26 ページ)



注意 – このセクションは、すでに電源が入ったシステムに設置されている既存のシャーシモジュールやオプションの交換については説明していません。この章の説明では、新規に導入したシステムにまだ電源が投入されていないと想定しています。既存のモジュールとオプションの交換については、『*Sun Blade 6000 Modular System Service Manual* (Sun Blade 6000 モジュラーシステムサービスマニュアル)』(820-0051)を参照してください。

▼ サーバーモジュールの設置

Sun Blade 6000 シャーシには、最大 10 個のサーバーモジュールが設置可能です。

スロットからフィルターパネルを取り外し、空いたスロットにサーバーモジュールを設置するには、次の手順に従います。

1. システムシャーシの前面で、シャーシ内のモジュールを設置するスロットの場所を確認します。

2. 必要に応じて、フィルターパネルを取り外します。

図 2-1 に、シャーシから取り外しているフィルターパネルを示します。

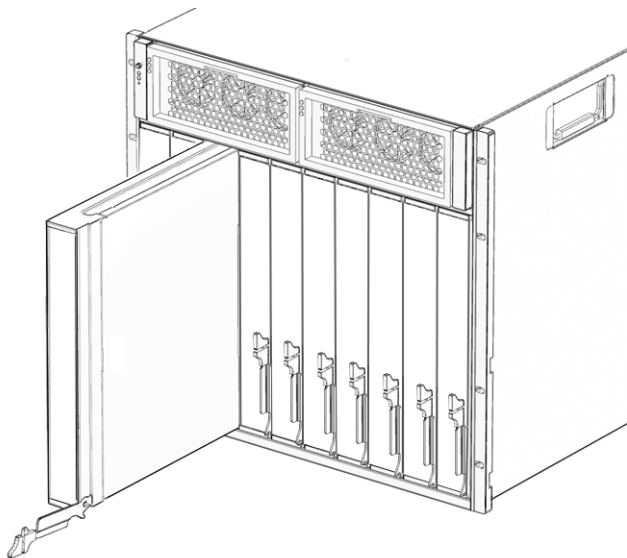


図 2-1 フィルターパネルの取り外し

3. フィルターパネルの下方にある取り外しレバーを下方に回して、シャーシからフィルターパネルを取り外します。

注 - 未使用スロットのフィルターブレードは、電磁妨害の制限に関する FCC の規定に準拠させるためのものなので、搭載したままにしておいてください。

4. エジェクタが右側になるように、サーバーモジュールを縦にします。

図 2-2 を参照してください。

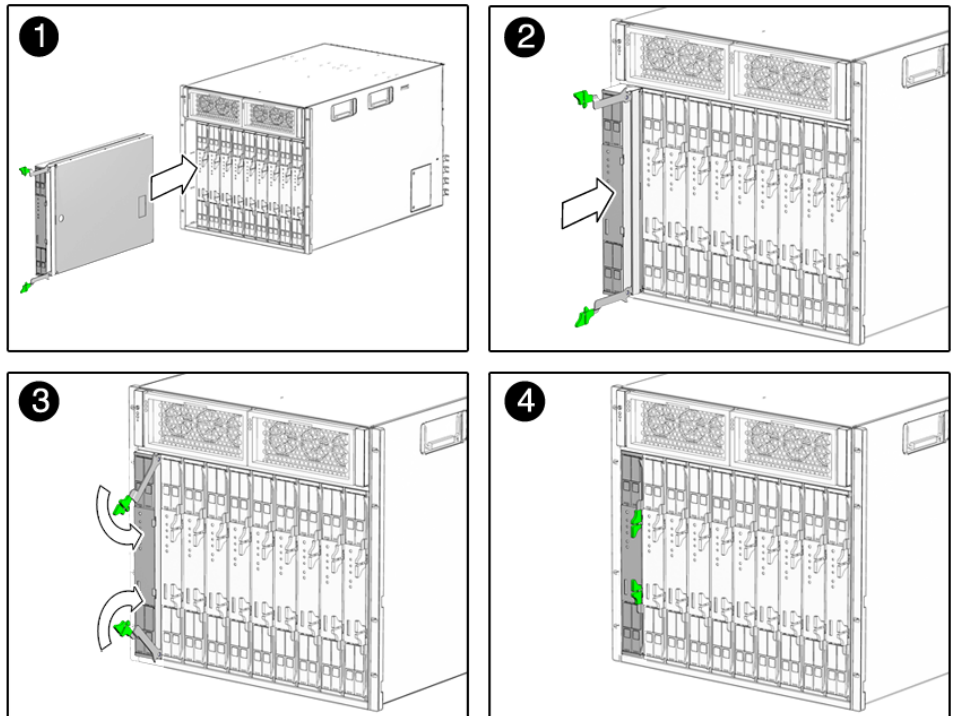


図 2-2 サーバーモジュールをシャーシに挿入する

5. ストップに当たるまで、サーバーモジュールをスロットに押し込みます。
6. 上の方の取り外しレバーがカチッとハマるまで、下方に回します。
サーバーモジュールとシャーシが面一にそろえられ、エジェクタがロックされます。
7. **ステップ 1** ~ **ステップ 6** を繰り返して、残りのサーバーモジュールを設置します。

▼ 電源モジュールの設置

図 2-3 に、電源の設置方法を示します。

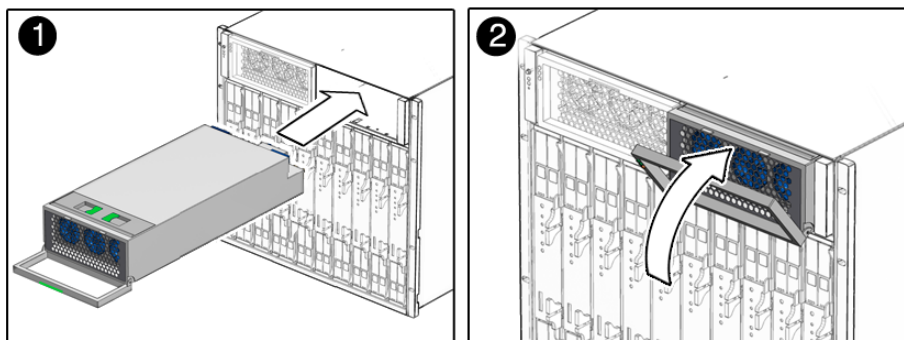


図 2-3 電源の設置

1. システムシャーシの前面で、空の電源スロットの場所を確認します。
電源モジュールを設置するときは、電源ユニットが上向きで、3つのLEDが左側にあることを確認してください。
2. 電源モジュールのハンドルを引っ張って開きます。
3. 電源ユニットの端を電源スロットに合わせます。
4. 電源スロットの内部コネクタとかみ合うまで、電源ユニットをゆっくりと押し込みます。
5. 電源モジュールのハンドルをカチッと音がするまで戻します。
6. [ステップ 1](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返して、両方の電源モジュールをシャーシに再設置します。

▼ NEM の設置

Sun Blade 6000 シャーシには、0 ～ 2 個の Network Express Module (NEM) を設置できます。図 2-4 に、NEM の設置方法を示します。

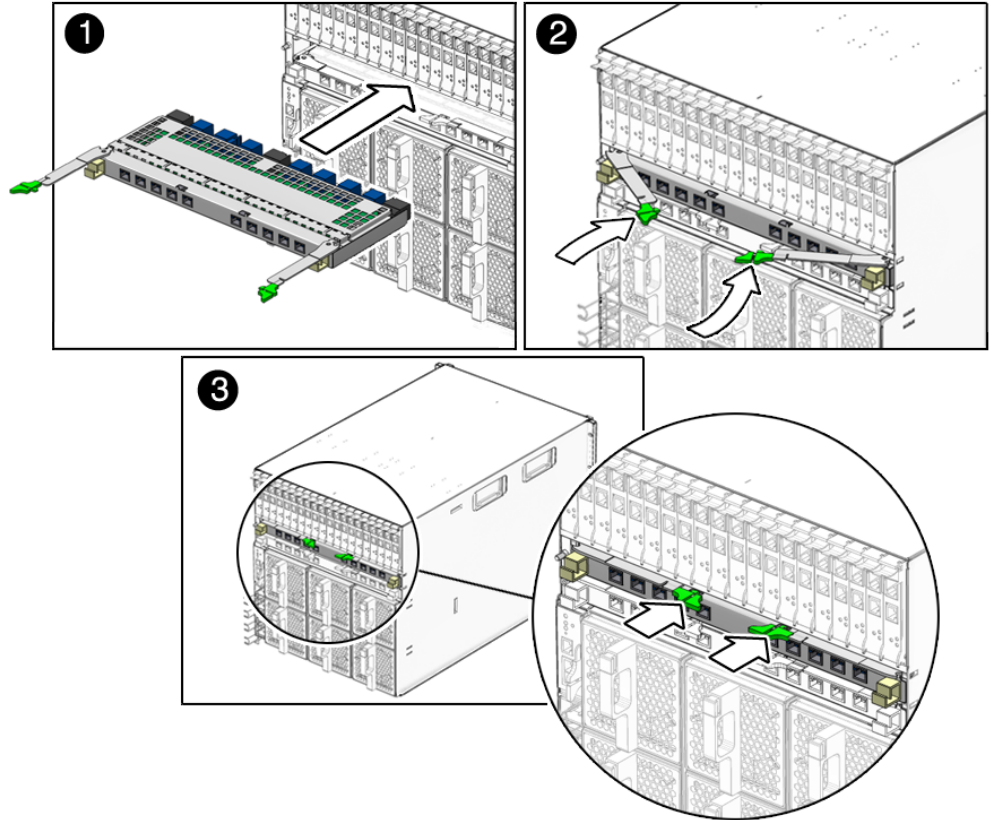


図 2-4 NEM の設置

1. NEM を空の NEM スロットの端に合わせます。
RJ-45 ポートコネクタが前面の上部にあることを確認します。
2. NEM の取り出しレバーを完全に開きます。
3. NEM が止まるまで、空の NEM シャーシスロットに NEM を押し込みます。
4. 取り出しレバーを閉じて、NEM を固定します。
5. [ステップ 1](#) ～ [ステップ 4](#) を繰り返して、残りの NEM を設置します。

▼ PCI EM の設置

Sun Blade 6000 シャーシには、最大 20 個の PCI ExpressModule (PCI EM) が設置可能です。このシャーシの PCI EM 0.0 ~ 9.1 というラベルが付いた各 PCI EM スロットには、全部で 20 個のフィラーパネルがあらかじめ設置されています。図 2-5 に、PCI EM の設置方法を示します。

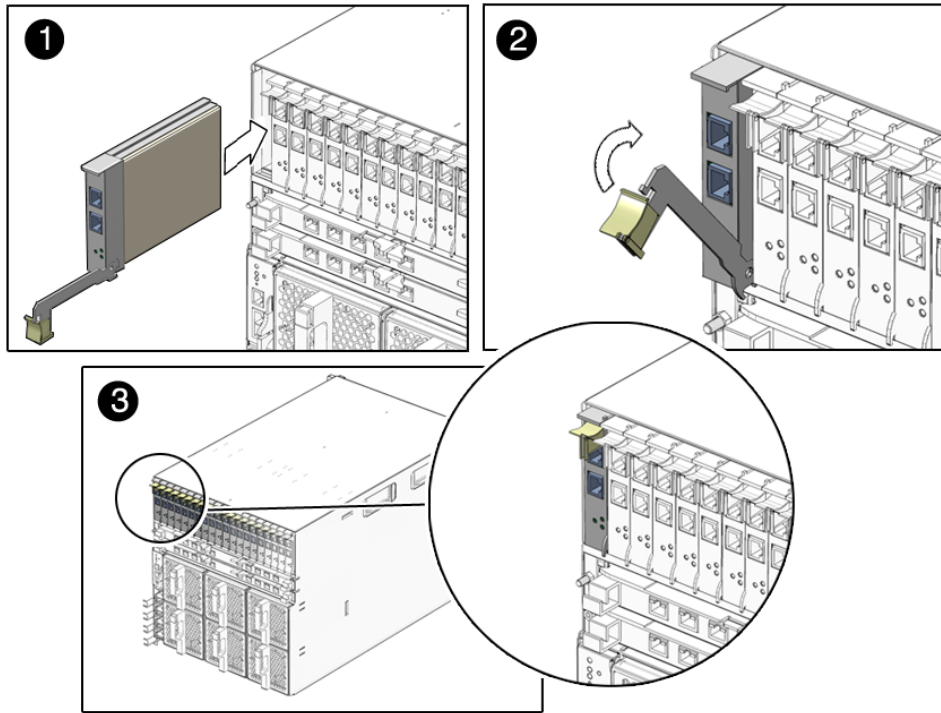


図 2-5 PCI EM の設置

1. PCI EM を空の PCI EM スロットの端に合わせます。
PCI EM の前面パネルのインジケータランプが前面を向き、PCI EM 取り外しレバーが完全に開いていることを確認します。
2. 空の PCI EM シャーシスロットに PCI EM を押し込みます。
モジュールをシステムに接続していくと、取り外しレバーが上がり始めます。
3. 最後に取り外しレバーを閉じて、PCI EM をシャーシに固定します。
4. [ステップ 1](#) ~ [ステップ 3](#) を繰り返して、残りの PCI EM を設置します。

▼ 背面ファンモジュールの設置

図 2-6 に、ファンモジュールの設置方法を示します。

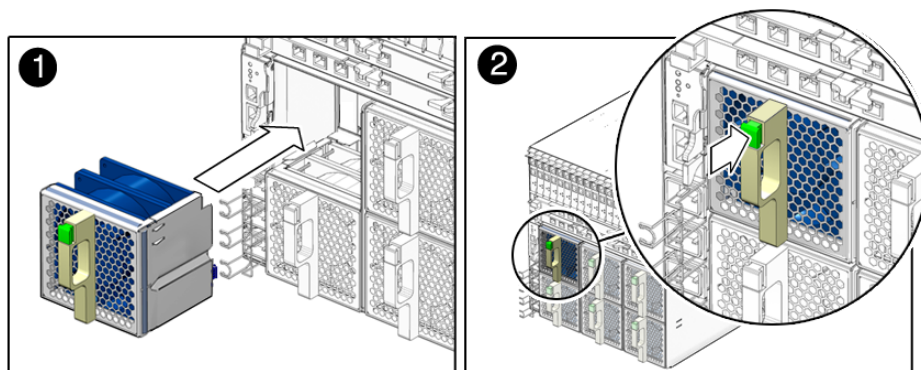


図 2-6 ファンモジュールの設置

1. システムシャーシの背面で、空のファンモジュールスロットの場所を確認します。
2. ファンモジュールを両手で持って、空のスロットの端に合わせます。
ファンモジュールの緑のボタンがファンの上の方にあることを確認します。
3. 前面パネルがファン制御アセンブリコネクタコネクタとかみ合うまで、空のスロットにモジュールを押し込みます。
ファンがファンに取り付けられるとき、カチッという音がするか、それが感じられるはずです。
4. **ステップ 1** ~ **ステップ 3** を繰り返して、6 個のファンモジュールをすべてシャーシに再設置します。

▼ CMM の設置

図 2-7に、CMM の設置方法を示します。

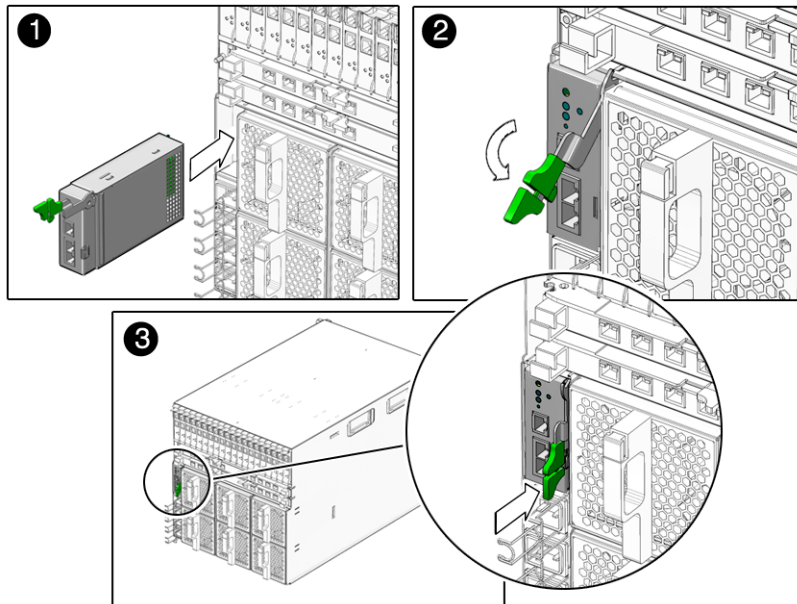


図 2-7 CMM の設置

1. PCI EM を CMM スロットの端に合わせます。
前面パネルの CMM のインジケータランプが、モジュールの一番上にあることを確認します。
2. 空の CMM シャーシスロットに CMM を押し込みます。
CMM が、システムシャーシのガイドとかみ合っていることを確認します。
3. 最後に取り外しレバーを閉じて、CMM をシャーシに固定します。
4. **ステップ 1** ~ **ステップ 3** を繰り返して、残りの CMM を設置します。

次の作業

モジュールとオプションを Sun Blade 6000 シャーシに設置したあと、電源ケーブルを接続してシステムの電源を入れます。第 3 章 を参照してください。

モジュールへのケーブルとデバイスの接続およびシステムシャーシの電源投入

この章では、AC 電源ケーブルの接続、ネットワークケーブルの管理、および適切なシャーシモジュールへのデータネットワークケーブルの接続の方法について説明します。最後に、システムシャーシにはじめて電源を入れる方法を説明します。

この章では次の項目について説明します。

- 「外部 I/O ポートと電源差し込み口について」 (28 ページ)
- 「Sun Blade 6000 モジュールへの I/O ケーブルの接続」 (32 ページ)
 - 「電源ケーブルの接続」 (32 ページ)
 - 「CMM ネットワーク管理ケーブルの接続」 (34 ページ)
 - 「NEM データネットワーク管理ケーブルの接続」 (35 ページ)
 - 「PCI EM データネットワーク管理ケーブルの接続」 (36 ページ)
- 「システムシャーシへのはじめての電源投入」 (38 ページ)
- 「次の作業」 (40 ページ)

外部 I/O ポートと電源差し込み口について

Sun Blade 6000 モジュラーシステムでは、次の各セクションで説明するそれぞれのモジュールに外部 I/O ポートが用意されています。

- 「Network Express Module(NEM)」 (28 ページ)
- 「PCI ExpressModule(PCI EM)」 (29 ページ)
- 「シャーシ監視モジュール(CMM)」 (31 ページ)
- 「AC 電源インタフェース」 (31 ページ)
- 「サーバーモジュール」 (32 ページ)

次の各セクションでは、Sun Blade 6000 の各モジュールにある外部ケーブルコネクタについて説明します。

Network Express Module (NEM)

設置されている各ギガビット Ethernet NEM には、10 個の外部ギガビット Ethernet ポートがあります。完全に構成されたシステムでは、2 個の NEM にある 20 の外部ギガビット Ethernet ポートが利用できます。

Sun Blade 6000 シャーシでは、1 つのサーバーモジュールにつき、NEM 0 ~ 1 というラベルが付いた最大 2 個の NEM スロットが提供されます。下のスロットが NEM 0、上のスロットが NEM 1 です。

Ethernet NEM には、1 つにつき 10 個の別々のギガビット Ethernet NIC があり、1 つのサーバーモジュールに 1 つの NIC が対応します。これらの NIC には、シャーシの背面から見て右から順に、NET 0 ~ 9 というラベルが付けられています。

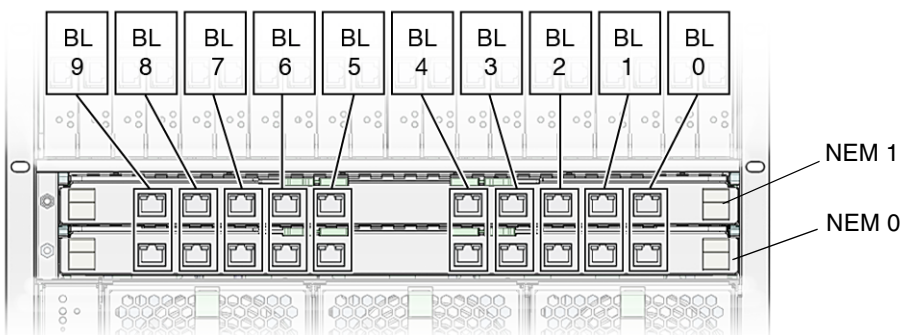


図 3-1 サーバーモジュールと NEM の対応

PCI ExpressModule (PCI EM)

設置されている各 PCI EM には、2 個の外部データポートがあります。最初の I/O 種類別 PCI EM として、次のいずれかを購入できます。

- ギガビット Ethernet ポート
- InfiniBand
- ファイバーチャネル

シャーシを完全構成した場合、2 個のデータネットワークポートを持つ PCI EM を 20 個搭載でき、合計 40 個のポートが利用できます。

Sun Blade 6000 シャーシには、最大 20 個の PCI EM が設置可能で、各サーバーモジュールに PCI EM スロットが 2 個ずつ割り当てられます。PCI EM スロットは、シャーシの背面から見て、右から順に PCI EM 0.0 ~ 9.1 と番号が付けられています。

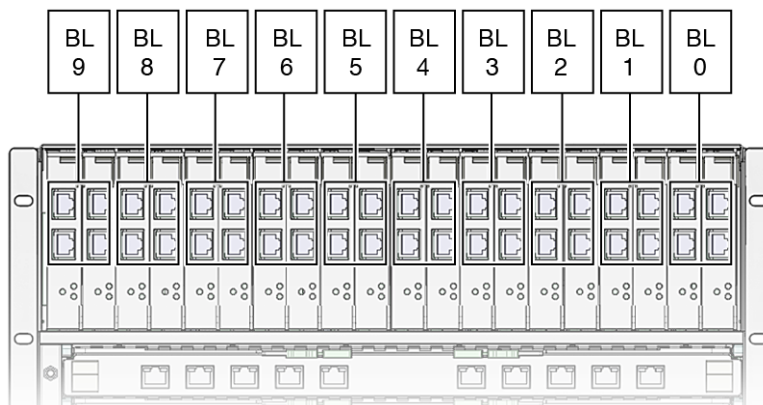


図 3-2 サーバーモジュールと PCI EM の対応

各 PCI EM ポートには、次のように番号が付けられています。

- ギガビット Ethernet: PCI EM の上側のポートがポート 1、下側がポート 0。
- ファイバチャネル: PCI EM の上側のポートがポート 0、下側がポート 1。
- InfiniBand: PCI EM の上側のポートがポート 1、下側がポート 0。

サーバーモジュールあたりの PCI EM データポートへの MAC アドレスの割り当て

ギガビット Ethernet PCI EM を Sun Blade 6000 に設置する前に、今後に備えて、各 PCI EM ポートの MAC アドレスを記録しておく必要があります。このセクションでは、PCI EM の MAC アドレスの取得方法を詳しく説明します。

すべての PCI EM では、各ポートに対して出荷時に固有の MAC アドレスが割り当てられています。たとえば、ギガビット Ethernet PCI EM では、各 RJ-45 データポートに対して1つずつ、合計2個の固有の MAC アドレスが割り当てられます。各 PCI EM ポートの MAC アドレスは、PCI EM ボードに、たとえば次のように印字されています。

00:14:4F:nn:nn:nn

nn は、各 PCI EM データポートに固有の MAC アドレスの数字です。

PCI EM のカバーを開き、MAC アドレスラベルを確認します。

1つのサーバーモジュールは、2つの PCI EM スロットに対応します。各 PCI EM の背面パネルには、2つの RJ-45 データポートがあり、ネットワークデバイスインタフェースと1対1で対応します。1つの RJ-45 データポートは、1つのサーバーモジュールに対応します。各サーバーモジュールは、最大4つの RJ-45 PCI EM データポートに対応します(サーバーモジュール1個あたり2個の PCI EM)。

PCI EM MAC アドレスは、PCI EM ポートのポート番号の小さい方から順に、連続した番号が割り当てられます。次に例を示します。

- PCI EM のギガビット Ethernet に、次の MAC アドレスが印字されていたとします。

00:14:4F:C4:FC:33 および 00:14:4F:C4:FC:34

- この場合、PCI EM の下側の RJ-45 ポートには 0.0 というラベルが付いているので、ポート 0.0 の MAC アドレスは 00:14:4F:C4:FC:33 となります。
- また、PCI EM の上側の RJ-45 ポートは 0.1 というラベルが付いているので、ポート 0.1 の MAC アドレスは、00:14:4F:C4:FC:34 となります。

物理 PCI EM ポートの MAC アドレスが変わることはありません。ただし、オペレーティングシステム (Solaris、Windows 2003 Server、Linux) が、RJ-45 PCI EM ポートに割り当てる論理名は、物理 MAC とは異なります。OS のインストール時に、論理名によって複数のネットワークインタフェースを設定する方法については、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

シャーシ監視モジュール (CMM)

各シャーシには CMM が 1 個設置でき、2 つの Ethernet (NET MGT) ポートと 1 つのシリアルポート (SER MGT) が付いています。図 3-3 に、CMM の I/O ポートを示します。

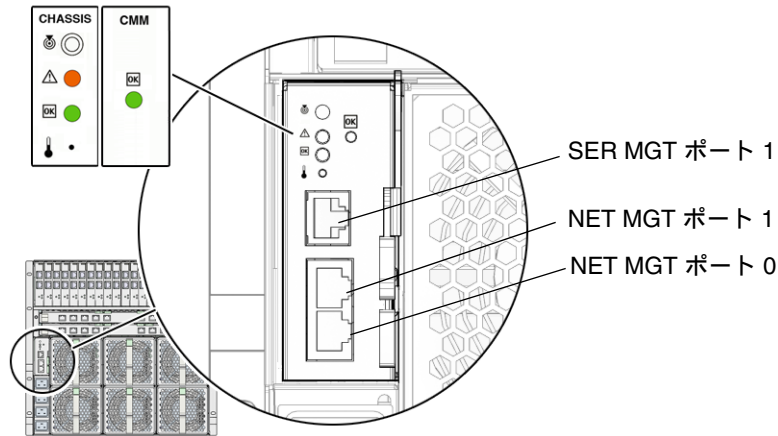


図 3-3 CMM の I/O ポート

AC 電源インタフェース

Sun Blade 6000 シャーシには、1 個の AC 電源インタフェースがあり、4 個の電源差し込み口が用意されています。図 3-4 に、AC 電源差し込み口を示します。

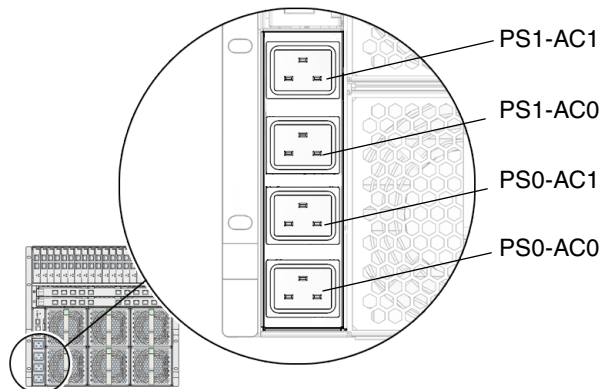


図 3-4 AC 電源差し込み口

Sun Blade 6000 の AC 電源インターフェースは、システムシャーシのモジュールに主電源を供給します。主電源は、AC 電源インターフェースからお客様が用意する配電盤 (PDU) に AC 電源コードが接続され、OK 電源 LED が点滅したあと、自動的に適用されます。

注 – CMM iLOM で、Power-on (電源オン) オプションが初期設定で有効です。このオプションを無効にすると、AC 電源コードをプラグに差し込んだあと、スタンバイ電源のみがシステムシャーシのシャーシ監視モジュールに供給されます。

電源インターフェースの AC 電源差し込み口は、各電源ユニットに電力を供給します。すべての電源ユニットには、別々の電源コードがあります。

サーバーモジュール

完全構成のシャーシには、10 個のサーバーモジュールが設置されています。各サーバーモジュールのコネクタについては、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

Sun Blade 6000 モジュールへの I/O ケーブルの接続

このセクションでは、次の項目について説明します。

- [「電源ケーブルの接続」 \(32 ページ\)](#)
- [「CMM ネットワーク管理ケーブルの接続」 \(34 ページ\)](#)
- [「NEM データネットワーク管理ケーブルの接続」 \(35 ページ\)](#)
- [「PCI EM データネットワーク管理ケーブルの接続」 \(36 ページ\)](#)

電源ケーブルの接続

このセクションでは、Sun Blade 6000 AC 電源インターフェースに電源ケーブルを接続する方法について説明します。

▼ AC 電源インタフェースへの電源ケーブルの接続

注意 - お客様が用意する配電盤(PDU)に電源ケーブルを接続する前に、Sun Blade 6000 モジュラーシステムの電源要件を確認することをお勧めします。システムの電源要件については、『Sun Blade 6000 モジュラーシステムサイト計画の手引き』(820-2078)を参照してください。

1. システムに付属の 4 本の電源ケーブルを準備します。
2. シャーシの背面にある電源インタフェースの AC 電源差し込み口の位置を確認します。

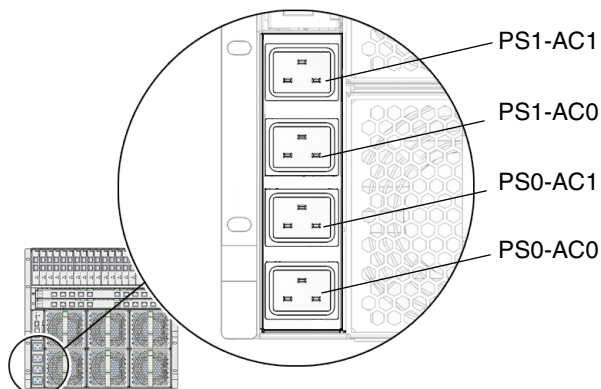


図 3-5 AC 電源差し込み口

3. 各電源差し込み口の金属の固定クリップを開きます。
4. シャーシ背面にある PS0-AC1、PS0-AC0、PS1-AC1、および PS1-AC0 の 4 つのスロット位置に、4 本の電源ケーブルを差し込みます。
5. 金属の固定クリップで、ケーブルをコネクタに固定します。
6. 電源ケーブルのもう一方の端を配電盤(PDU)に接続します。
システムシャーシに、主電源が自動的に配電されます。

CMM ネットワーク管理ケーブルの接続

このセクションでは、シャーシ監視モジュール(CMM)の背面パネルにある Ethernet NET MGT ポートに、ローカルエリアネットワークのケーブルを接続する方法について説明します。

▼ CMM への管理ネットワークケーブルの接続

1. Ethernet ネットワーク管理ケーブルを準備します。
2. Ethernet ケーブルを、CMM の RJ-45 NET MGT 0 ポートに接続します。

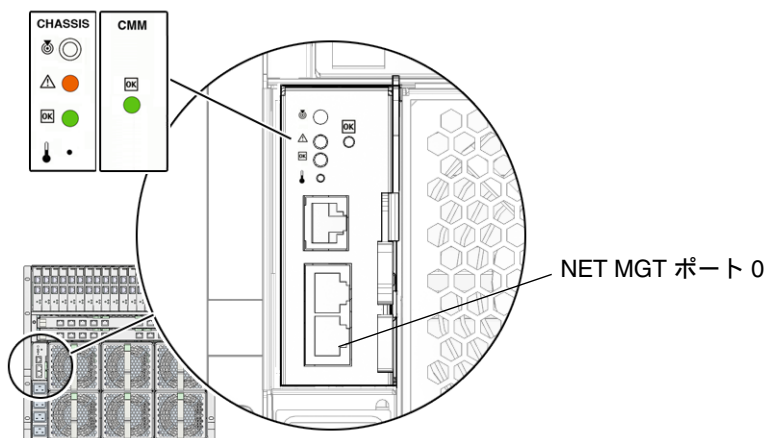


図 3-6 CMM NET MGT ポート

3. Ethernet ケーブルのもう一方の端をローカルエリアネットワークに接続します。

NEM データネットワーク管理ケーブルの接続

このセクションでは、Ethernet Network Express Modules (NEM) にデータネットワークケーブルを接続する方法について説明します。

▼ NEM へのデータネットワークケーブルの接続

1. データネットワークケーブルを準備します。
2. データネットワークケーブルを適切な RJ-45 Ethernet スロットに接続します。
サーバーモジュールと NEM との接続については、「[Network Express Module\(NEM\)](#)」(28 ページ) を参照してください。

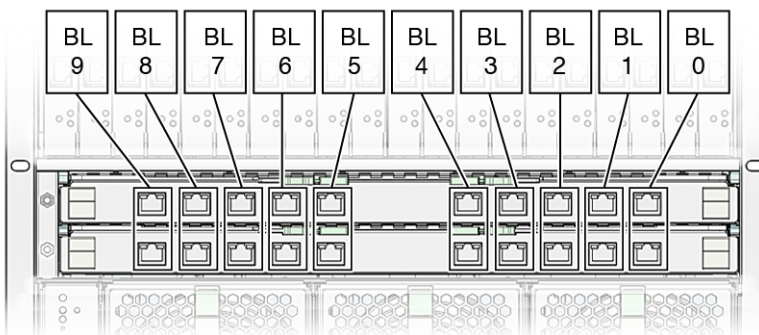


図 3-7 サーバーモジュールと NEM の対応

3. データネットワークケーブルのもう一方の端をローカルエリアネットワークに接続します。

PCI EM データネットワーク管理ケーブルの接続

このセクションでは、PCI ExpressModule (PCI EM) にデータネットワークケーブルを接続する方法について説明します。

開始前のご注意

ここに示す手順は、次の作業を完了していることが前提となります。

- すべての PCI EM データポートの MAC アドレスが記録されている。PCI EM ポートの MAC アドレスが、PCI EM ボードに印字されている。PCI EM ポートの MAC アドレスを確認するには、PCI EM カバーを取り外します。詳細は、「[サーバーモジュールあたりの PCI EM データポートへの MAC アドレスの割り当て](#)」(30 ページ) を参照してください。

注 - オペレーティングシステムのインストール時に、複数のネットワークインタフェースに関するネットワーク情報をオペレーティングシステム用に設定する場合は、ネットワークに接続されている各 PCI EM ポートの MAC アドレスが必要になります。

▼ PCI EM へのデータネットワークケーブルの接続

1. データネットワークケーブルを準備します。
2. データネットワークケーブルを適切な RJ-45 データスロットに接続します。
サーバーモジュールと PCI EM との接続については、「[PCI ExpressModule\(PCI EM\)](#)」(29 ページ) を参照してください。

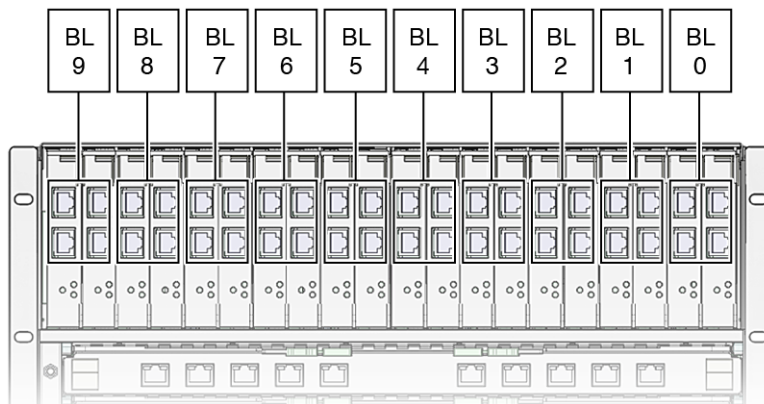


図 3-8 サーバーモジュールと PCI EM の対応

3. データネットワークケーブルのもう一方の端をローカルエリアネットワークに接続します。

CMM へのシリアルコンソールの接続

このセクションでは、シャーシ監視モジュール(CMM)にシリアルコンソールを接続する方法について説明します。CMM 経由ではなく、サーバーモジュールと直接通信する場合は、Sun Blade 6000 シャーシに付属のドングルケーブルを使用して、サーバーモジュールの前面パネルに、シリアルコンソールを直接接続します。詳細は、サーバーモジュールシステムのドキュメントを参照してください。

▼ CMM へのシリアルコンソールの接続

1. シリアルコンソールケーブルを準備します。
シリアルコンソールケーブルは、別途用意する必要があります。
2. CMM の背面パネルにある SER MGT ポートにシリアルコンソールケーブルを接続します。

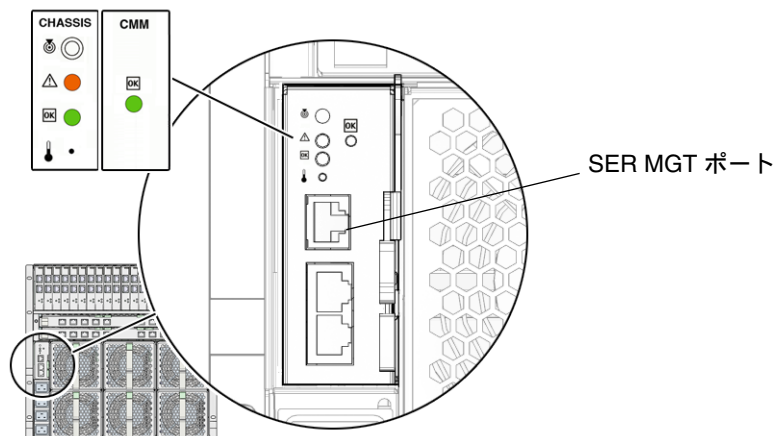


図 3-9 CMM SER MGT ポート

システムシャーシへのはじめての電源投入

電源に電力が供給されるとすぐに、システムシャーシに自動的に主電源が供給されます。システムシャーシに電源が入ると、CMM、NEM(s)、サーバーモジュール、それらの PCI EM など、シャーシ内のすべてのモジュールに主電源が適用されます。

注 - 初期設定では、シャーシに自動的に電源を投入するオプションのポリシーが CMM ILOM で有効です。シャーシの自動電源投入のポリシーを無効にすると、12V のスタンバイ電源がシステムシャーシに適用されます。

このセクションでは、システムシャーシとサーバーモジュールに電源が投入されていることを確認する方法を説明します。

▼ システムシャーシへの通電の確認

1. AC 電源ケーブルが、電源インタフェースモジュールから電源に接続されていることを確認します。

詳細は、「[電源ケーブルの接続](#)」(32 ページ) を参照してください。

2. 主電源がシステムシャーシに適用されていることを確認します。

OK 電源 LED が緑に点灯します。OK 電源 LED は、シャーシの前面と背面にあります。

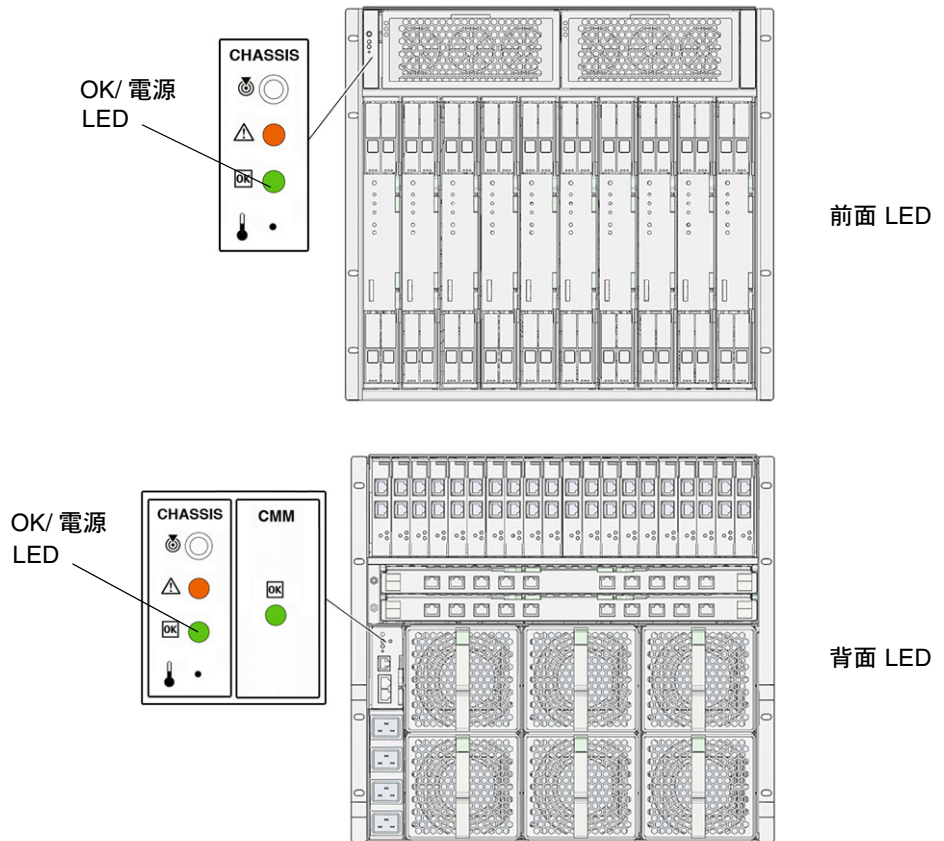


図 3-10 前面と背面のシャーシ LED

注 - 初期設定では、システムシャーシに自動的に電源を投入するオプションのポリシーが CMM ILOM で有効です。シャーシの自動電源投入のポリシーを有効にすると、電源に電力が供給されたあと、システムシャーシによってシャーシ内のすべてのモジュールに自動的に主電源が適用されます。

電力がサーバーモジュールに適用されたことを確認する方法は、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

次の作業

ケーブルを I/O モジュールに接続したあと、ローカルデバイスをサーバーモジュールに接続し、システムシャーシとサーバーモジュールに電源を投入したあと、CMM とサーバーモジュールの管理ネットワークを設定します。[第 4 章](#)を参照してください。

Sun Blade 6000 モジュラーシステム 管理ネットワークの設定

この章では、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用して、シャーシ監視モジュール(CMM)に IP アドレスを設定する方法について説明します。特に、ILOM を使用して、CMM との接続を確立する詳細手順を示します。そのあと、CMM に静的 IP アドレスまたは動的 (DHCP) IP アドレスを設定する方法について説明します。

この章では次の項目について説明します。

- 「Integrated Lights-Out Manager とは」 (42 ページ)
 - 「事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて」 (42 ページ)
- 「CMM ILOM への初期接続の確立」 (43 ページ)
- 「管理ネットワーク IP アドレスを使用した CMM ILOM との通信」 (44 ページ)
- 「はじめての IP アドレスの割り当て」 (45 ページ)
 - 「DHCP を使用した初期 IP アドレスの割り当て」 (46 ページ)
 - 「シリアル接続による CMM への静的 IP アドレスの割り当て」 (47 ページ)
- 「CLI による CMM ILOM の Root アカウントのパスワード変更」 (49 ページ)

Integrated Lights-Out Manager とは

Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、Sun Blade 6000 シャーシに設置されたコンポーネントを監視および管理するための内蔵システム管理ツールです。ILOM には、CMM サービスプロセッサによってアクセスします。CMM ILOM では、たとえば、ネットワーク情報の設定、ハードウェア設定の表示と編集、重要なシステム情報の監視、ユーザーアカウントの管理などを行うことができます。

注 - 本書で使用する *CMM ILOM* という用語は、Sun Blade 6000 モジュラーシステム CMM サーバードプロセッサ上で動作する ILOM を指します。Sun Blade 6000 シャーシに設置されたサーバードモジュールに固有のサーバード管理システムについては、サーバードモジュールのドキュメントを参照してください。

CMM ILOM は、コマンドラインインタフェース (CLI) と IPMI インタフェースからアクセスできます。

有効なユーザーアカウントを持つすべてのユーザーが CMM ILOM にアクセスできます。はじめて CMM ILOM にアクセスするときは、あらかじめ設定した ILOM 管理者アカウントを使用する必要があります。

Sun Blade 6000 シャーシに設置される一部のサーバードモジュールは、異なる管理ソフトウェアを使用します。サーバードモジュールの管理については、サーバードモジュールに付属のドキュメントを参照してください。

CMM ILOM で実行できる作業については、「[システム管理レベルと機能](#)」(7 ページ)を参照してください。事前設定の ILOM 管理者アカウントについては、「[事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて](#)」(42 ページ)を参照してください。

事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて

Sun Blade 6000 モジュラーシステムには、次の CMM ILOM 管理者アカウントが事前に設定されています。

ユーザー名: root

パスワード: changeme

root という事前設定の管理者アカウントは、デフォルトのパスワードは変更できませんが、そのアカウントを削除または変更することはできません。このアカウントは、CMM ILOM 機能やコマンドを使用できる内蔵の管理者特権(読み込み、書き込みアクセス)を提供します。

はじめて ILOM に CMM レベルまたはサーバーモジュールレベルでアクセスするときは、`root` として `changeme` というデフォルトのパスワードを使用してログインする必要があります。CMM ILOM にログインし、システムへの接続を確立したあとで、システムへの不正アクセスを防止するために、ILOM `root` アカウントのパスワードを変更します。

ILOM `root` アカウントのパスワードのリセットについては、「[CLI による CMM ILOM の Root アカウントのパスワード変更](#)」(49 ページ)を参照してください。

CMM ILOM への初期接続の確立

初期ネットワーク設定情報を使用して CMM とサーバーモジュールを設定するには、ILOM 経由で CMM への接続を確立する必要があります。CMM に IP アドレスを割り当てるまでは、まずシリアル接続を使用して CMM と通信します。CMM へのシリアル接続を確立すると、静的 IP アドレスまたは DHCP IP アドレスを使用して、CMM とサーバーモジュールを設定できるようになります。

DHCP IP 割り当てについて

はじめて電源を投入したときに、CMM ILOM は、IP アドレスを求める DHCP 要求をブロードキャストします。DHCP サーバーはこの要求を受け取ると、アドレスやその他のネットワーク情報を供給します。サーバーモジュールに同時に電源が投入されると、サーバーモジュールも DHCP 要求をブロードキャストし、個別の IP アドレスを受け取ります。

静的 IP 割り当てについて

DHCP サーバーによって提供される動的アドレスの代わりに静的アドレスを使用する場合は、次の時点で静的 IP アドレスを割り当てることができます。

- LAN ケーブルを CMM の NET MGT ポートに接続する前
- モジュールに最初の DHCP IP アドレスが割り当てられたあと DHCP によって割り当てられたアドレスを静的 IP アドレスに変更できます。

シリアルコンソールへの最初の接続について

静的 IP アドレスまたは DHCP IP アドレスのどちらかを割り当てる場合も、まずシリアルコンソール接続を確立して CMM ILOM と通信します。次に例を示します。

- **DHCP 割り当ての IP アドレスの場合。**シリアルコンソールを CMM に接続して、まず CMM とサーバーモジュールに割り当てられた IP アドレスを取得します。IP アドレスを取得したあとは、割り当てられた IP アドレスを使用して、リモートネットワーククライアントから CMM およびサーバーモジュールへ、ILOM による Ethernet 接続経由で通信できます(サーバーモジュールへは Web ブラウザ GUI により、CMM へは CLI のみにより)。
- **静的 IP アドレスの場合。**アクティブな CMM へのシリアル接続を確立して、静的 IP アドレスを最初に割り当てます。CMM またはサーバーモジュールにすでに静的または DHCP IP アドレスが割り当てられている場合は、既存のアドレスを変更するためにシリアル接続は必要ありません。既存の IP アドレスを使用して CMM またはサーバーモジュールにシリアル接続または Ethernet 接続をすると、CMM ILOM にログインして、割り当てられた IP アドレスを変更できます。

管理ネットワーク IP アドレスを使用した CMM ILOM との通信

CMM に IP アドレスが割り当てられたあとは、それらの IP アドレスを使用して CMM ILOM と通信します。特に、ネットワーク管理 IP アドレスは、CMM のサービスプロセッサに割り当てられた IP アドレスです。

管理ネットワーク IP アドレスのほかに、データネットワーク IP アドレスが付与されることに注意してください。データネットワーク IP アドレスは、サーバーモジュールにホストオペレーティングシステムをインストールしたあとに設定されます。データネットワーク IP アドレスと管理ネットワーク IP アドレスは目的が異なるので、これらを区別することが重要です。

シャーシレベルで管理作業を実行する場合は、CMM の IP アドレスを指定する必要があります。サーバーモジュールレベルで管理作業を実行するには、サーバーモジュール SP の IP アドレスを指定する必要があります。

サーバーモジュールの IP アドレスを指定する方法は、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。シャーシレベルで実行できる管理作業の簡単なリストについては、「[システム管理レベルと機能](#)」(7 ページ)を参照してください。

はじめての IP アドレスの割り当て

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 「DHCP を使用した初期 IP アドレスの割り当て」(46 ページ)
- 「シリアル接続による CMM への静的 IP アドレスの割り当て」(47 ページ) .

準備すべき事柄

IP アドレスを割り当てる前に、必ず次の設置作業を完了してください。

- Sun Blade 6000 モジュラーシステムの梱包を解き、ハードウェアとケーブル配線の設定を完了します。詳細は、[第 1 章](#)、[第 2 章](#)、および[第 3 章](#)を参照してください。
- Ethernet ケーブルを CMM の背面パネルの NET MGT ポートに接続します。詳細は、「[CMM ネットワーク管理ケーブルの接続](#)」(34 ページ) を参照してください。
- シリアル接続によって CMM(またはサーバーモジュール)へのコンソールアクセスを確立します。詳細は、「[CMM へのシリアルコンソールの接続](#)」(37 ページ) を参照してください。
- 次のシリアル設定を行います。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー
 - ハードウェアのフローコントロール無効(CTS/RTS)
 - ソフトウェアのフローコントロール無効(XON/XOFF)
- 主電源がシャーシとサーバーモジュールに適用されていることを確認します。詳細は、「[システムシャーシへのはじめての電源投入](#)」(38 ページ) を参照してください。

注 – DHCP IP アドレスを割り当てる場合は、Sun Blade 6000 モジュラーシステムと同じローカルネットワーク上に、DHCP サーバーを確立する必要があります。DHCP サーバーの設定はこのガイドの範囲外です。DHCP サーバーソフトウェアに付属のドキュメントを参照してください。

▼ DHCP を使用した初期 IP アドレスの割り当て

DHCP を使用して IP アドレスを割り当てるには、次の手順に従います。

1. DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御(MAC)アドレスを受け入れるよう設定されていることを確認します。DHCP サーバーソフトウェアに付属のドキュメントを参照してください。
2. Ethernet ケーブルが、アクティブな CMM の NET MGT ポートに接続されていることを確認します。
 - すでに静的 IP アドレスが設定されていない限り、CMM ILOM は、CMM の MAC アドレスとサーバーモジュールの MAC アドレスの ID を使用して、DHCPDISCOVER パケットを自動的にブロードキャストします。
 - ネットワーク上の DHCP サーバーは、IP アドレスなどの情報を含む DHCP OFFER パケットを返します。CMM は、DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスの「リース」状況を管理します。
3. CMM およびサーバーモジュール SP に割り当てられた DHCP IP アドレスを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

■ ILOM-CMM 間のシリアル接続

CMM の背面パネルに接続されたシリアルコンソールを使用して、管理者として CMM ILOM にログインします。たとえば、ログインプロンプトで事前設定の管理者ユーザー名 `root` とそのデフォルトのパスワード `changeme` を入力して Enter キーを押します。

- 作業用ディレクトリをアクティブな CMM に設定するには、次のように入力します。

```
cd /CMM/network
```
- アクティブな CMM IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
show
```
- 階層を下って、各サーバーモジュールの IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
show /CH/BLx/SP/network
```

注 - BLx は、スロット BL-0 に設置されているサーバーモジュールを表します。ターゲットのサーバーモジュールを指定するには、モジュールが設置されているスロット番号を指定します。サーバーモジュールのスロット番号は、0 ~ 9 です。

■ DHCP サーバーログ

詳細は DHCP サーバーのドキュメントを参照してください。

注 - サーバーモジュール SP に DHCP アドレスを割り当てる手順については、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

▼ シリアル接続による CMM への静的 IP アドレスの割り当て

シリアル接続によって CMM に静的 IP アドレスを割り当てるには、次の手順に従います。

1. アクティブな CMM とのシリアル接続が稼働していることを確認します。
シリアルコンソールを CMM に接続する方法については、「[CMM へのシリアルコンソールの接続](#)」(37 ページ) を参照してください。
2. 管理者ユーザー名とパスワードを入力し、Enter キーを押して、CMM ILOM に管理者としてログインします。

ヒント – CMM ILOM へのログインには、ILOM にあらかじめ設定されている管理者アカウント `root/changeme` を使用できます。詳細は、「[事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて](#)」(42 ページ) を参照してください。

デフォルトのプロンプト (->) が表示され、システムで CLI コマンドを実行してネットワーク設定が行えるようになります。

3. CLI を使用し、LOM によって CMM に静的 IP アドレスを設定するには、次のコマンドを入力して作業用ディレクトリを設定します。

```
cd /CMM/network
```

4. 次のコマンドを使用して、IP、ネットマスク、およびゲートウェイアドレスを指定します。

コマンド	説明および例
<code>set pendingipaddress=</code>	<p>このコマンドのあとに、CMM に割り当てる静的 IP アドレスを入力します。</p> <p>例: <code>set pendingipaddress=129.144.82.26</code> と入力すると、CMM の IP アドレス、<code>129.144.82.26</code> が ILOM によって割り当てられます。</p>
<code>set pendingipnetmask=</code>	<p>このコマンドのあとに、CMM に割り当てる静的ネットマスクアドレスを入力します。</p> <p>例: <code>set pendingipnetmask=255.255.255.0</code> と入力すると、CMM のネットマスクアドレス、<code>255.255.255.0</code> が ILOM によって割り当てられます。</p>
<code>set pendingipgateway=</code>	<p>このコマンドのあとに、CMM に割り当てる静的ゲートウェイアドレスを入力します。</p> <p>例: <code>set pendingipgateway=129.144.82.254</code> と入力すると、CMM の静的ゲートウェイアドレス、<code>129.144.82.254</code> が ILOM によって割り当てられます。</p>
<code>set pendingipdiscovery=</code>	<p>次のコマンドは、静的 IP アドレスを設定するかどうかを ILOM に対して指定します。</p> <pre>set pendingipdiscovery=static</pre>
<code>set commitpending=true</code>	<p>このコマンド(<code>true</code>)を入力すると、指定したネットワーク設定が割り当てられます。</p> <p>例: <code>set pendingipaddress=129.144.82.26</code> <code>set pendingipnetmask=255.255.255.0</code> <code>set pendingipgateway=129.144.82.254</code> <code>set commitpending=true</code></p>

CLI による CMM ILOM の Root アカウントのパスワード変更

パスワード、`changeme` を変更するには、次の手順に従います。

1. CMM の背面パネルに接続されたシリアルコンソールを使用して、管理者として CMM ILOM にログインします。

たとえば、ログインプロンプトで事前設定の管理者ユーザー名 `root` とそのデフォルトのパスワード `changeme` を入力して Enter キーを押します。

2. 次のように入力して、CMM のパスワードを変更します。

```
set /CMM/users/root password=password
```

`password` は、新しく割り当てるパスワードです。

新しいユーザーアカウントの作成と、ユーザーアカウントへの役割(特権)の割り当てについては、『*Integrated Lights Out Manger (ILOM) Administration Guide for Sun Blade 6000 Modular System* (Sun Blade 6000 モジュラーシステム用 Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド)』(820-0052) および設置したサーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

次の作業

Sun Blade 6000 モジュラーシステムのネットワーク情報を設定したあとは、サーバーモジュールにオペレーティングシステムを設定できます。詳細は、Sun Blade 6000 モジュラーシステムに設置されているサーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

索引

A

- AC 電源インターフェース 32 ~ 33
 - 電源ケーブルの接続 33
 - 電源差し込み口 31

I

- I/O 接続 5 ~ 6
- ILOM → 「Integrated Lights Out Manager」を参照 42
- Integrated Lights Out Manager (ILOM) 42 ~ 49
 - コマンド
 - set コマンド、CMM、オプションの表 48
 - シリアルコンソール接続によるシステム通信の初期化 44
 - 事前設定の管理者アカウント
 - root パスワードのリセット 49
 - ログイン 43
 - 割り当てられたネットワーク IP アドレスによるシステム通信 44
- IP アドレスの割り当て、初期 43 ~ 49
 - DHCP 割り当ての IP アドレス 46
 - 静的 IP アドレス 47
 - 前提条件 45

N

- Network Express Module (NEM)
 - サーバーモジュールの接続 28
 - シャーシスロット 28
 - 仕様 2
 - 設置 23

- データネットワークポート 28
 - 取り外し 13
 - ポート 28
 - ローカルエリアネットワークへの接続 35

P

- PCI EM → 「PCI ExpressModule」を参照
- PCI ExpressModule (PCI EM)
 - サーバーモジュールの接続 29
 - シャーシスロット 29
 - 仕様 2
 - 設置 24
 - 説明 5
 - データネットワークポート 29
 - 取り外し 14
 - ポート 29
 - ローカルエリアネットワークへの接続 36
- PCI-Express Module (PCI EM) の MAC アドレス 30

S

- set コマンド (ILOM)
 - CMM オプション、表 48

い

- インストール
 - 作業のチェックリスト 9

お

- オペレーティングシステムのサポート 7

か

関連ドキュメント viii

さ

サードパーティーの Web サイト ix

サーバーモジュール

DHCP IP アドレスの設定 46

Network Express Module (NEM)、接続 28

PCI ExpressModules (PCI EM)、接続 29

構成 2

サポート情報 viii

し

システム管理

共通の管理操作 8

操作、要約 7

ツール、要約 7

システム機能、基本とオプション、表 2

シャーシ

AC 電源インタフェース、差し込み口 31

AC 電源ケーブル、接続 33

最初の電源投入 38

電源の接続 32～33

パッケージングおよび開梱 3

モジュール

PCI ExpressModule (PCI EM) 29

モジュール接続

シャーシ監視モジュール (CMM) 31

モジュールとオプションの追加

Network Express Module (NEM) 23

PCI ExpressModule (PCI EM) 24

シャーシ監視モジュール (CMM) 26

前提条件 18

背面ファンモジュール 25

モジュールの接続

Network Express Module (NEM) 28

ラックマウント

Network Express Module (NEM) の取り
外し 13

PCI ExpressModule (PCI EM) の取り外し 14

サポートされているラックとキャビネット 5

シャーシ監視モジュール (CMM) の取り

外し 15

電源モジュールの取り外し 11

背面ファンモジュールの取り外し 12

シャーシ監視モジュール (CMM)

IP アドレスの設定

DHCP による割り当て 43～46

ILOM との通信の確立 44

set コマンド (ILOM)、オプションの表 48

静的割り当て 47

前提条件 45

シリアルコンソール、接続 37

設置 26

取り外し 15

ローカルエリアネットワークへの接続 34

出荷 (納入パッケージの内容) 2

せ

静電気、防止 10 18

設置

Network Express Module (NEM) 23

PCI ExpressModule (PCI EM) 24

シャーシ監視モジュール (CMM) 26

電源モジュール 22

背面ファンモジュール 25

て

電源ケーブル、AC 電源インタフェースへの
接続 33

電源投入、最初 38

電源の接続、シャーシ 32～33

電源モジュール

再設置 22

取り外し 11

と

トレーニング情報 viii

ドキュメント、関連 viii

ね

ネットワーク情報、設定→「Integrated Lights Out
Manager (ILOM)」を参照 42

は

ハードウェア設定、管理→「Integrated Lights Out
Manager (ILOM)」を参照 42

ひ

表記上の規則 ix

ふ

ファンモジュール、背面

設置 25

取り外し 12

